

一般質問



これからの観光について 学校教育関連について

田口寿宜

海外からの観光客を増やして行くには

質問 総合計画で「テンミリオンプ画」が打ち出された。県内外から観光客を集客するのも大切な事ではあるが、海外から、特に韓国、中国、台湾からの観光客を今以上に集客するのも、この計画に結びつく一つの要素であると考えます。国際教養大学の教育チームが国際観光について調査をし、色々な提案をしている。「田沢湖畔観光施設の活用」という事で、科学技術や文化などに関する国際的な会議の開催を提案していた。市民の中にも海外にパイプを持っている方がいる。国際教養大学の提言等を参考にしながら、産、学、官、市民が協力、連携し今まで以上に海外から観光客を増やして行くべきと考えますが市長の考えを伺う。

市長 私も同感である。「テンミリオンプ画」の具体的な取り組み内容、進め方については、重点プロジェクトとして掲げて今スタートに付いたところであるので、何をどうするかについては、今ここで申し上げる状態にはなっていないが、当然国内の観

光客を増やすことと同時に、海外からのお客さんを増やすことにも力を入れていきたいと思う。ちなみに、外国からの取り組み客数は、宿泊客数で平成十六年で四千人台、十七年は七千百人とかなり伸びている。

質問 JRが十九年度に北東北三県を大々的に売り込む「デステイネーションキャンペーン」という企画がある。北東北三県の重要観光地との交流と連携を深め、このキャンペーンを最大限活用し仙北市を今まで以上に売り込んで行くべきと考えますが市長の考えは。

市長 今年は、JR東日本二十周年、こまち開業秋田新幹線十周年になる。JRとしては、こういう事でデステイネーションキャンペーンを行うということで、仙北市としてもJRと連携を取りながらPR活動をしたり、今年にはスタンプラリーなど積極的に取り組んでいる。

今後の学校運営の予算はどうなっていくのか

質問 厳しい財政状況の中、色々な面に配慮しながら各小、中学校に予算配分されたと思うが、今後学校への

予算はどうなるのかという不安の声が多々聞かれる。二十年度以降の見通しについて伺う。また、予算編成の際、各学校の担当者からヒアリングを行っているか。

市長 予算が厳しいから教育予算を削るといふことのないようにしていきたいと思っている。

教員 各学校の事務担当及び管理職の方からのヒアリングをもとにしながら、それを実現できるように努力している。

質問 全国的にも大変問題になってきている給食費の滞納。十七年度決算を見ると、仙北市でも未収金があった。

学校給食法第六条に給食費は、保護者が負担すると明記されている。集金方法も様々であり、将来的に未収金の額が大きくなるらないよう市として統一した方法を取るべきと考えます。口座引き落としも一つの方法と思う。現在の状況と今後の対策について伺う。

教員 十七年度には、小、中学校合わ

せて三十件程度の未納があった。十八年度は、二月まで約六十件ほどである。この一ヶ月の間にいくらか前進できるものと考えているが昨年度よりも厳しい状況にある。対策については、二月に市の収納対策本部ができたので、その力をかりながら進めて行きたい。全国的に差し押さえとか、給食ストップだとか厳しいことがある。

先行事例に学びながら今年度中に方向性を出したいと思っている。



楽しい給食時間